

野菜・花きの営農情報


《 8月中旬～9月中旬の技術対策 》

令和元年 8 月 14 日発行
第 4 号
空知農業改良普及センター本所
Tel : 0126-23-2900
Fax : 0126-22-2838

【全作物共通】

- ① 多くの病害虫の発生しやすい時期となります。高温多湿条件では、病害の進行や害虫の生育ステージが早まります。発生初期を見逃さないためには、ほ場観察が大切です。
- ② 農薬散布前には最新の作物登録内容を確認しましょう。また、農薬使用基準を守り、薬害や他作物への農薬飛散に注意して防除を実施して下さい。
- ③ ハウスやトンネルでは、高温障害に注意して管理しましょう。特に日差しの強い場合は、遮光資材などを利用し障害の発生を回避しましょう。
- ④ 台風や大雨に備えて周囲の排水対策やハウスバンドの締め直しなど、風雨に対する備えに常時留意して下さい。
- ⑤ 適期収穫と選別の徹底に努め、出荷物の品質を維持しましょう。
- ⑥ 収穫後は有機物の施用に努めましょう。

【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none">・高温時期のかん水や追肥不足により、草勢の低下が見られます。・着果数が多くなると蒸散も盛んになり、なり疲れを起こしやすい時期です。かん水はマルチ下の土壌水分を確認し、少量多回数とします。・夜温が低下する時期になると、果実の着色に日数がかかり、開花から収穫まで 50 日以上必要となります。収穫打ち切り時期の目処をつけ、主枝の摘心が済んでいない場合は摘心しましょう。・夜温が低下すると果実の肥大が悪く、裂果が発生しやすくなるので夜は保温しましょう。湿度の高い日はかん水を控えましょう。	<ul style="list-style-type: none">・花がらや葉先枯れから灰色かび病が発生しています。下葉や病葉の摘葉と早めの防除で対応しましょう。・換気による除湿に努めましょう。・収穫の終わった果房下の葉は摘葉し病害の予防に努めましょう。
きゅうり	<ul style="list-style-type: none">・今後は気温の低下に伴い、側枝の発生が緩やかになります。・整枝は、半放任で強い摘心を避け、摘葉を中心とした管理で草勢維持に努めましょう。また、雌花の着生していない側枝は早めに除去し、繁茂しないようにしましょう。・適宜、かん水や追肥を行いましょう。	<ul style="list-style-type: none">・べと病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類の発生が見られます。・8月中旬以降、褐斑病の発生が多くなる時期です。・病害虫の発生状況に留意し適期に防除しましょう。  <p>褐斑病</p>

かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> 肥大に必要な養分を確保するため、葉を健全に保ちましょう。 収穫の目安は花梗部にひびが入り、果皮の表面が堅くなってからです。 	<ul style="list-style-type: none"> 果実に直射日光が当たることで「日焼け果」になります。葉を健全に保つためにうどんこ病の防除を徹底しましょう。
いちご	<ul style="list-style-type: none"> 日中の温度が25℃以上にならないよう、循環扇を活用しましょう。 いちごは、乾燥や過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 花びらの落ちが悪いと、そこから灰色かび病の発生につながります。薬剤防除のほか、こまめな換気などの耕種的防除も行いましょう。 ハダニ、シクラメンホコリダニの発生に注意し、発生初期防除に努めましょう。 アザミウマ類の発生が多くなっています。防除は定期的に行いましょう。

【野菜（葉茎菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 殺菌剤防除により品質低下を抑えましょう。 粗選別は機械の処理速度を抑え、発病球が混入しないように慎重に選別しましょう。 収穫が終了したほ場では、排水対策に努めましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 貯蔵腐敗病の防除を重点的に行いましょう。
露地ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 早期作型では、収穫期を迎えます。収穫が遅れると首部の締まりが悪くなるため、適期収穫に努めましょう。 収穫の終了したほ場には、たい肥等の有機物の補給に努めましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月下旬からアザミウマ類が急激に増えています。発生状況を確認し早期防除に努めましょう。 葉枯病、白斑葉枯病の発生が見られます。発生状況に応じて薬剤を選択し適期防除を行いましょう。 <div data-bbox="1018 1348 1423 1608" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1075 1617 1362 1653" data-label="Caption"> <p>アザミウマ類の食害</p> </div>
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> 水分不足は夏芽及び翌年の春芽の収量低下、穂先の開き、曲がりの原因になります。かん水は適切に行いましょう。 うねの表面は過湿に注意しながら、常に湿った状態とし、うねの表面が白く乾いたらかん水しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 灰色かび病、斑点病、茎枯病が発生しやすい状況です。適切な枝整理を行い、防除を実施しましょう。 ツマグロアオカスミカメ、ヨトウムシ、アザミウマ類などが発生しやすくなります。ほ場をよく観察し、適期防除を行いましょう。

【花 き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
カーネーション	<p>〈温度管理の目安〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高温時には、ハウスに遮光資材を設置しましょう。ただし、天候に応じてこまめに掛け外しましょう。また、気温が下がってきたら9月中旬頃までに外します。ただし、日差しの強い日中は避け、曇天日や夕方に行いましょう。 <p>〈かん水管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 秋に2番花を採花する予定のほ場は、1番花の採花終了後、草勢を維持するため、適期にかん水と追肥を行いましょう。 <p>〈その他管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 水あげ用バケツは十分に洗浄し、水の使い回しは避けましょう。 • 降雨後の採花は前処理時間を延長し、STSの吸収量が不足しないようにしましょう。 • 箱内の湿度が高まらないように、茎が濡れた状態での箱詰めは避けましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> • ハダニ類、アザミウマ類、鱗翅目類の発生が多くなっています。防除を実施しましょう。また、同じ剤の連続使用は避け、系統の異なるものを散布しましょう。
作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
スターチス (シヌアータ)	<p>〈温度管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 遮光資材は、天候を考慮して掛け外しましょう。また、気温が下がってきたら9月中旬頃までには外します。ただし、日差しの強い日中は避け、曇天日や夕方に行いましょう。 <p>〈かん水管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2番花立ち上げに向け、かん水と追肥を行いましょう。 <p>〈その他管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 他の農作業と重なる時期ですが、適期収穫を目指し収穫遅れや切り残しのないようにしましょう。 • 選花場では水あげ用バケツに入れる花の本数を減らし、扇風機で空気の流れをつくる等、花が蒸れないようにしましょう。 • また、低温庫から出してすぐに箱詰めをすると、箱の中は蒸れやすくなります。箱詰め前に外気温にならす、紙をはさむなど蒸れ対策をしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 降雨により灰色かび病の発生が懸念されます。定期的に予防防除を行いましょう。 • また、病気の発生源としないよう、1番花の採花が終了したほ場は、枯れた下葉を取り除きましょう。 • ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られます。防除を実施しましょう。

★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょう★